

平成28年度 第3回 宇都宮市食育推進会議 議事録

■ 日 時 平成29年2月23日(木) 午後2時～3時

■ 場 所 宇都宮市役所14階 14大会議室

■ 出席者

1 委 員 (12名)

大森玲子会長, 塚原毅繁委員, 福田久美子委員, 小森享委員, 遠藤秀樹委員,
清水昭子委員, 岩本眞砂枝委員, 金田淳委員, 半田正子委員, 伊沢栄子委員,
荒川昭子委員, 青木浩子委員

※欠席委員: 長谷川英一委員, 小曾戸典子委員, 澤田博子委員, 堀内英夫委員,
中野智之委員, 刑部郁夫委員, 見形繁委員, 寺内美栄子委員

2 事務局 (13名)

[保健福祉部] 部長, 次長(保健衛生担当), 保健所所長, 保健所副所長

[健康増進課] 課長, 課長補佐, 健康づくりグループ係長, 職員3名

[学校健康課] 学校食育グループ係長, 職員1名

[農林生産流通課] 職員1名

■ 公開・非公開の別 公開

■ 傍聴者 なし

■ 会議経過

1 開 会

- ・ 委員の過半数が出席しており, 本会議は有効であることを報告
- ・ 「附属機関等の会議の公開に関する要領」に基づき, 会議公開について説明, 了承

2 あいさつ(会長)

3 議 事

- (1) 「第3次宇都宮市食育推進計画」(素案)に関するパブリックコメントの対応について
- (2) 「第3次宇都宮市食育推進計画」(案)について

4 委員からの主な意見・質問等（要旨）

- (1) 「第3次宇都宮市食育推進計画」（素案）に関するパブリックコメントの対応について
- (2) 「第3次宇都宮市食育推進計画」（案）について

● 委員

パブリックコメントの意見が少なく、残念に思う。

高齢者の低栄養に関し、計画の中に食の自立支援（配食サービス）事業（38ページ）を組み込んだところだが、課題の中に高齢者の単身世帯についても入れた方がよかった。

○ 事務局

課題について若い世代に特化した言い方をしたが、計画の中では「世代ごとの課題に対する食育の推進」や「家庭や生活の状況に応じた食育の推進」としてまとめてある。若い世代だけでなく、高齢者の課題についても取り組んでいきたいと思う。

高齢者の低栄養については、体のことを考えて食事をバランスよく食べる、地域の中で食を支えていく取り組みとし、各世代の課題ということで表現させていただく。

● 委員

大切なのは、健康寿命が延びて市民が長く元気に生きられることだが、そういう意味では生活習慣病の予防改善が最も重要である。基本方針別紙1の2ページ「メタボリックシンドロームなどの生活習慣病の予防や改善のための行動を実践する人（40歳代・50歳代）の割合」の数字が25.2%と、他の数字に比べて極端に低い。

推進計画の37ページから38ページに、市でこれから行っていく施策一覧があるが、この内容で今後50%以上まで持っていけるのか。

○ 事務局

目標値の達成については、こちらも手探りの状況だが、あらゆる分野から間口を広げ実践活動につなげていきたい。行政ですべての市民に伝えていくのは難しいところだが、工夫してやっていきたいと思う。

● 委員

この内容で50%までいけそうだと思うか。

○ 事務局

なかなか厳しいご意見ですが、全力をあげて50%まで達するよう努力していく。

● 委員

期待している。

● 会長

38 ページ事業番号 32 に、医師会との連携事業について、糖尿病に特化しているが、その他の取り組みもしていると思う。生活習慣病全体をとらえた医師会との連携事業はほかにないか。

● 委員

具体的には糖尿病事業だけだと思う。栄養相談などでは参加しているが、決まった形の事業としてはこの事業のみである。

● 会長

メタボリックシンドロームなどの生活習慣病の予防や改善のための行動を実践する人（40 歳代・50 歳代）の割合」とあるが、企業を巻き込んでいくことが 50% に近づいていく施策になっていくと思う。今後検討していく上で考慮して欲しい。

● 委員

現在、生活習慣病が市民の 6 割を占めており、これは全国と比較しても高い。さらには実践している人が少ないという状況にある。生活習慣病の大きな要因には、塩分の摂りすぎがあると思う。塩分の摂りすぎがリスクを高めるといわれているため、塩分を意識することは大切かと思う。私も時々外食をするが、特に中華めんを食べた時に、とても味が濃いと感じ、こういった時に今日は塩分を摂りすぎたと思う。

宇都宮市は、全国的に煎餅の消費量が 1 位・中華めんも全国 5 位である。甘いもの（プリン）も 5 位くらいである。統計的にみて、生活習慣に関する問題が出ていると思われる。

これらのことから、第 3 次計画では、バランスのとれた食事と同じように、塩分の問題を新たな項目として設けられないか。

メタボにかかるアンケートを取る際に、意識を高めることが必要だと思う。アンケートを記入しながら「そういうことか」と思ってもらえるような取組が必要だと思う。そのような意識を高めるために、例えば塩分・脂肪・糖質・間食・運動習慣など、具体的な項目を挙げてみてはどうかと思う。

これまでは『改善しているかどうか』といった質問で結論を出していると思うが、項目を直接見ることで意識が高まり、改善につながるのではないかと思う。

● 委員

私たちは、保健センターや保健所などにおける講習会では必ず1日の塩分摂取量の説明をしている。1日3食で目標量を超えてしまわないよう、バランスの良い食事と、特に年配の方がメタボになりやすいので気を付けるよう促している。

私たちヘルスマイトは、特に塩分を強調して摂りすぎないように訴えている。また、1日350gの野菜や適度な運動、甘いものの過剰摂取を止めることを含めて実施している。小学校の学校祭では、カロリーの多いお菓子類などを理解できるよう啓発を行っている。

お菓子を食べすぎると夕飯が食べられなくなるので気を付けるよう促すことや子どもを通して家庭に伝えて欲しいことも内容に含めて活動をしている。

学校や各地域でヘルスマイトが活動しており、減塩などの意識は浸透しつつあると思う。

○ 事務局

塩分の問題はヘルスマイトと市と連携してやっていき、広めていきたい。アンケートについての意見も頂いたので、どのようにしたら広まっていくのかを含めて頂いた意見を参考にしながら取り組んでいきたいと思う。

● 委員

本来、食育自体が教育的な見地から作られることだと思う。今後推進していく新しい事業の中でも、スクール・啓発・指導などといった、上から一方的に市民に「こうしなさい・こうした方が良い」といった言い方だと、人は集まらないし、興味も持たない。

テレビで『サラメシ』という番組がある。サラリーマンのお弁当を見せてもらうものであるが、教えている専門学校生は、食べることは嫌ではないが、自身の朝食・昼食に対しては面倒・無頓着であり、色々な言い訳をして省略してしまう子が多い。

新聞、テレビ、レディオベリーなどを利用し、『サラメシうつのみや版』を作ってはどうか。みんなで食べること・学校や市役所、市内のサラリーマンの昼食風景を定期的に・継続して見せていき、そこで楽しそうなことをすると、私も出たいと思う人も出てくるはずで、そこから種が蒔かれていくのではないかと思う。年1回の食育イベントは良いと思うが、一発で終わってしまうのではなく、宇都宮出身のタレント・芸人に参加してもらい、こういった取組を月1回や週1回といった具合に、継続的に取り上げていくべきではないか。そうすれば子ども・家庭だけではなく、社会全体が目覚めると思う。

幼稚園などでお弁当の写真を見せると喜ぶが、母親と子どもはどうしても競争心が出てしまう。お弁当が急にキャラ弁になったりするが、そこで終わってしまう。それ

よりは、学生・サラリーマンのお昼について、こんな仲間と、こんな風に食事を楽しんでいる場面をピックアップし、市民に披露する。その中で軽く塩分測定などをしたりののが良いのではないか。一般市民が活動できる舞台をつくり、我々が後ろからサポートしながら望ましい道に誘導する方法を考えるべきだと思う。

○ 事務局

行政としても、どうやって皆さんに普及させていくのかが重要課題であると認識を持っている。今頂いたアイデアを参考に、やり方などを検討していきたいと思う。

● 委員

パブリックコメントの意見の2番目で「参加することに気が引ける」という言葉があるが、気が引けるというのは上から目線で、指導されることや自分たちが今までやってきたことを否定される等、そういう意味にもとれる。

改善するのは同意を得られなければならないので、気が引けるような事業は止めた方がよいと思う。

推進計画について、一般市民はこのようにたくさんの計画が作成されているのを誰一人知らないと思う。できれば紙面上のことではなく、いくつでも良いので、実践的にできるもの・完璧にできることをやって欲しい。

塩分についても、塩分は生命維持に不可欠なものだが、ならどうして悪い面があるのか、そういった基本的なことを知らずに塩分調整をしている人も多いと思われ、真夏にも塩分を摂ってはいけないとかだけを誇張し、誤った知識になってしまうおそれもある。

結局はバランスの問題なので、なぜ塩分がダメなのかを分かりやすく説明する必要がある。摂ってはいけない等の誇張・指導的な言葉は、一般市民に向けて使うべきではないと思う。

○ 事務局

取り組みの姿勢について頂いた意見を、肝に銘じてやっていきたいと思う。

計画についても、知らない人が大多数ということは分かっているし、どのように周知したら良いのかは大きな課題だと感じている。パンフレット作成やインターネット SNS 等を考えてはいるが、このやり方についても検討し、より広く伝わる方法を取りたい。

● 委員

保育園の子どもたち・保護者に対し、働く世代を対象とする食育推進事業の中で、“歯と口の健康づくりの推進”“2歳から小学2年生までのフッ素塗布”があるが、子ども・

保護者に対する一連の食育ということで見させてもらった。特に保育園は親が忙しくしており、中食が多いことや子どもの口内の清潔をチェックできずに一日が過ぎてしまうことがある。

先日の歯科健診では、幼稚園より保育園の子どもの方が、むし菌が多いという意見があった。食育は身体全てに関わってくることであり、特に幼い子どもの保護者の意識を変えていかなければと感じた。

今後も歯科医師と地域と協力し、保育士の頭の中でよく整理しながら食育というものを考えていきたいと思う。

○ 事務局

各種団体の皆様の協力を得ながら事業を推進し、今回の計画でも、地域社会全体でと謳っている。食育は行政の力だけでは推進していけないため、引き続き皆様の力を借りながら進めていきたいと思っている。

● 会長

働く世代へのアプローチの仕方として、直接だけではなく、保育園・幼稚園から小学校・中学校の、子どもを通した親世代への間接的アプローチも有効であると感じた。施策の展開の際に考慮してもらいたい。

● 委員

食育出前講座は良いと思っているが、まだまだ知らない人は多い。つまりは発信が少ないと思う。保育園や小学校・地域の文化祭等、多くの人が集まる機会がある中で、食育ブースを出そうと、こちらから持ちかけなければ絶対に出ることは無い。分からないものは頼めないからである。今年はそういう仕掛けを積極的に行って欲しい。それには出前講座がもってこいのツールだと思うし、ここは強化し、しっかりとPRして欲しい。その中で医師会の先生の協力を得て、出前講座を通じ、親世代に伝わるようになって欲しい。

《出前講座，昨年度の実績は41件》

● 委員

食育の観点というのは、伸びしろがたくさんあると思う。いろいろなことが食育を通して学べ、心の成長にも関与し、地域のコミュニティを作るにも一役買っていて、まだまだ伸びしろがあり面白いと感じている。

出前講座で、定年退職をした男性を対象にした、”男の料理教室”を開催してはどうだろうか。高齢夫婦だけになり、奥さんが病気になった時など、途端に食に困るといふケースを多く聞いている。

もう一つは、子どもを通した親への働きかけは特に大切だと思う。給食は教えられること、学ぶことが多い。本庁レストランで、給食のレシピで食事を提供することがあったが、これはとても面白い取り組みだと思った。子どもの給食を親が口にする機会はあるようでないし、また、一般の人が給食を食べる機会もない。これは食育を進めていく上で良い切り口であると思う。せっかく始めたこの取り組みを、これからも続けて欲しい。

● 委員

高齢者の低栄養について、消費者友の会会長もかなり気にかけている。今年は、専門の先生による高齢者の料理教室を実施する計画を立てている。私たちの団体も高齢者が多い為、非常に大切な問題ではないかと感じている。

● 委員

食育に関心をもたせるのは大変だと思うが、身近な切り口として、農業からは入りやすいと思う。こちらでも出前講座等をやっており、イベントでは子どもにゲームをやらせてもらっている。一緒にいる両親にも見せることで食育について考えてもらい、コミュニケーションをとっている。

農業振興公社では、講座をやるにあたっての教材等を貸出しているので、ぜひ利用して欲しい。

● 委員

学校・子ども達からのアプローチは重要であると私も思う。実際、栄養士の取り組みは仕事としても親としても素晴らしいと思っている。特に小中学校の食育は突出していると感じる。

若い世代、高校・大学になって急激に食に対する意識とバランスが崩れるので、今回の重点事業において、朝ごはんを食べているかだけでなく特に大学生あたりの展開を強化して欲しいと思う。そうすれば彼らが親になった時に食への興味を引き継げると感じる。

● 委員

農業振興公社の出してくれたような情報を知るきっかけがないことが多いので、この会議の機会を利用し、各種団体の取り組みを市が取りまとめて発信していけると、それぞれの事業が盛り上がるし、今後の大きな力になると思う。計画の中ではないが、市の方へお願いしたい。